

訪問記

2nd International MICE Conference & Forum (ホスト校：チェンマイ大学) 参加記

中村学園大学 流通科学部

前 嶋 了 二

1. はじめに

2019年8月28日、29日の両日、タイ王国の古都チェンマイで開催された「第2回国際 MICE 会議およびフォーラム (2nd International MICE Conference & Forum)」にホスト校であるチェンマイ大学経済学部 MICE エクセレンスセンターからの招聘に応じて出席した。同会議は2018年1月にタイ政府コンベンション&エキシビション・ビューロー (以下 TCEB) が「アセアン MICE 会議」として開催した国際会議をチェンマイ大学が継承して開催したもので、今回は The 8th International Conference on Asian Economic Development および The 3rd Chiang Mai MICE EXPO 2019との併催となった。

会期中は、プレナリーのパネルセッションのパネリスト、分科会でのセッション・チェア、分科会での講演を行う一方、米国、イタリア、タイ、シンガポール、韓国、マレーシアなどで MICE⁽¹⁾ の研究や人材育成に携わる研究者諸氏とのネットワーキングを行ったほか、チェンマイ大学経済学部およびタイ政府コンベンション&エキシビション・ビューロー (以下、TCEB) の MICE 人材育成部 (MICE Capabilities Department) と今後の学術交流に関する協議を行った。

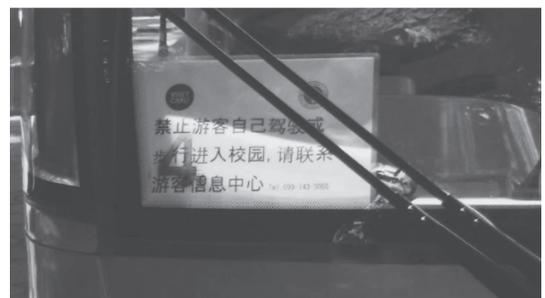
2. チェンマイ大学について

国立チェンマイ大学は、タイ北部・旧ランナー

王朝地域を代表する総合大学で、18の学部を持ちタイ北部随一の規模を誇る。旧市街地の城壁の外側、仏教寺院や山岳民族で知られるステープ山のすそ野に広がる緑あふれるキャンパスは実に4平方キロの広さである。近年では貸し切りバスやレンタルバイクで、キャンパス内を勝手に観光する中国人観光客が急増したため、3年ほど前から中国系のツアーオペレーターに委託運営する電動カートによるキャンパスツアーが運行されるようになった。



チェンマイ大学キャンパスツアー



中国人観光客のキャンパス内自由見学を禁止

(1) MICEは1990年にシンガポール政府観光局がビジネス・ツーリズムの主要4セグメント corporate Meeting (企業会議)、Incentive travel (報奨旅行)、Convention / Conference (非営利会議)、Exhibition / Event (展示会、イベント)の頭文字を取って呼び始めた造語。欧州や豪州では Business Events、米州では単純に Meetings と呼ばれてきた。

前嶋了二

また、学生の数も多く、全学部で24,000人を超える。2018年1月に第1回アセアン MICE 会議にお招きいただいた折は、ちょうど王妃のご臨席での卒業式が行われていたが、卒業生全員の名前を読み上げるのに1日半を要したとのことであった。昼食に駆けつけてくださった経営学部のシリウト学部長が、半日かかったと声をからしておられたのを今も思い出す。悪いことに、タイ国民の名前が非常に長く読みづらいことは誰もが知るところで、日常は、皆、生まれた直後に親から授かる短いニックネームで呼ばれている。もちろん正式な場では本名で呼ぶことになるので、前任地でタイの大学生を対象としたサマーセミナーを主催していた頃は、修了証の授与式で何度もカミながら名前を読んで、学生たちからくすくすと笑われたものである。



緑あふれる広大なチェンマイ大学のキャンパス

ちなみに都市の名前もまた非常に長く、バンコク市の正式名称は、クルンテープ・マハーナコーン・アモーンラッタナコーシン・マヒンタラーユッタヤー・マハーディロック・ポップ・ノッパラット・ラーチャタニーブリーロム・ウドムラーチャニウェートマハーサターン・アモーンピマーン・アワターンサティット・サツカタッティヤウィサヌカムプラシットである。

3. 第2回国際 MICE 会議およびフォーラム

国立チェンマイ大学経済学部の学部長補佐を務めるパイラッチ・ピブーンルングロイ博士から招聘の打診を受けたのは6月初旬のことだっ

た。7月中旬に「来週プログラムをアップするから」とのメッセージのあとひと月以上が経った8月22日、ローマへ向かう途中パネリストと分科会での講演についての連絡を受けたが、8月28日に会場である KHUM KHAM International Convention Centre に到着してみると、分科会のセッション・チェアまでしっかりと役が割り振られていたのは、いかにもタイらしいマイペースさである。



チェンマイ大学経済学部

(1) 第1日ーパネル・ディスカッション

初日は9:30からのオープニング・セレモニーに続いて、2本の基調講演が行われたが、ローマからの帰途にあった私がシンガポール乗継でチェンマイに到着したのは、昼のことだった。

パネルディスカッションの会場に入るなり、いきなりハグしてきたのは、メルボルンに本社を持つ、ミーティング産業界を代表するコンサルティング会社ゲイニング・エッジのディレクター、ジェーン・V・ホームズ女史だった。日本、スロベニア、南アフリカ、マレーシアなど世界各国のコンベンション政策やシンガポール、東京、ダラス、バンクーバーなど世界のトップ・コンベンション都市11都市で構成する「ベスト・シティーズ・アライアンス」の運営を行う手腕の持ち主で、マレーシア政府コンベンション&エキシビション・ビューローなどのコンサルティングも行っている。前職は100か国1000団体以上

が加盟する世界最大の会議産業民間団体である ICCA 国際会議協会 (International Congress & Convention Association; 以下 ICCA) のアジア太平洋支部事務局長である。

パネル・ディスカッションは2セッション行われ、第1セッション「Sustainable MICE Development & Impacts (持続可能な MICE の発展とインパクト)」のモデレーターは、ジェーンが務めた。

次に近づいてきたのは、筆者がパネリストとして登壇する第2セッションのモデレーターである米ノース・テキサス大のキム・ヨンフン教授だった。セッション・テーマの「International MICE Education Development (国際 MICE 教育の発展)」について、簡単に打合せを済ませた。チェンマイ大からの事前連絡では、パワーポイント・プレゼンテーションは必要ないとのことだったが、「是非」と言われ、第1セッション中の30分で作成し何とか間に合わせた。

パネルセッションはというと、タイ政府の外郭団体である TCEB の MICE 人材部 (MICE Capabilities Department) 部長の Ms. オラチョンが生き活きとその取り組みを謳いあげる。タイはアジアの MICE 教育先進国である。アジアの MICE 教育ハブを標榜している。TCEB の MICE 人材部は、国内62大学と44専門学校、併せて約106の高等教育機関に MICE 人材教育用のカリキュラムとテキスト、産業界からのゲスト講師を提供している。海外の教育機関との交流も盛んであるが、そのことは後述する。

さて、我が国の MICE 人材教育はどうかというと、タイのみならず近隣の韓国や中国にも後れを取りつつある。現在我が国で観光関連の講義を持つ大学は200以上あるが、MICE に関する講座を持っているのは、その1/10の20ほどにしか過ぎない。マーケットニーズがあるに

もかかわらず、研究者自体が少なく、高等教育機関における教育者も少ない。産業革命以来、常にツーリズムの最先端にあった欧米のビジネス・ツーリズムやミーティング産業とは異なり、日本ではレジャーツーリズムが先行して発達したという歴史的な特殊性が影響していることは否めない。結果、MICE の専門人材教育は、日本ホテルスクールなど、職業従事者を対象としたものに偏ったものとなってきた。

私の発表「MICE Education in Japan」では、そうした日本の特殊性や進行する少子高齢化と人口減少社会の課題に触れたうえで、我が国のホスピタリティ教育が、必ずしも学生たちの観光産業への就職を約束していない状況について説明した。数年前の統計によると、観光学部・学科の観光産業就職率は18%に満たなかったと記憶している。中途半端な専門性よりも、コミュニケーション能力や素直さなど人間性や可能性を重視する日本企業の本質だけがその要因になっているわけではなく、欧米豪のようなマッチングを前提とした長期インターンシップが構築できていないこともその要因として考えられる。近年の新しい動きとして、米国のセントラル・フロリダ大学 (UCF) ローゼン・スクール⁽²⁾へ留学して、より専門的な実務と経営を学ぶ若者が増えていることや、私の加盟しているミーティング産業のプロフェッショナル達の国際個人会員組織である Meeting Professional International (本部：ダラス) の日本支部でセントラル・フロリダの卒業生たちが企画し、大学生のワーキング・グループが活動をしている。最後に、私が福岡観光コンベンションビューロー在職時代に始めた、福岡とタイとの MICE 学術交流と MICE を学ぶ大学生たちによるサマーセミナーについても開催国への敬意を表する形で紹介した。

(2) UCF はオーランドという地の利を生かし、ディズニーワールドや多くのホテルで年間100日を超える長期有給インターンシップが行われている。現在、米国ではコーネル大、UCF の2大学のみがイベント・マネジメント学士の学位を出している。

前嶋了二

他にも韓国から国立仁川大学のチュン・ジンヨン教授、マレーシアからマラ工科大学のノロル・ハミザ・ザムツリ教授、イタリアからミラノ大学のアンドレア・ジウリーチン教授がパネリストと登壇し、各国での MICE 教育の現状を報告した。



ゲスト・スピーカーの紹介（ウェルカムレセプションにて）

（2）第2日 分科会

2日目には午前午後にわたり、9セッションの分科会が行われ、審査を経た24本の論文の研究発表が行われた。

私もゲスト・スピーカーとして、“The small innovative MICE initiative in the local cities of Japan-population declining society and new role of MICE” の演題で研究発表の機会を得た。発表では、2013年以降「起業特区」として政策的にイノベーションおよびスタートアップ環境が整えられてきた福岡市やUターンやIターンが多い人口減少地域において、若者を中心とした小規模な MICE が自然発生的に増加していることを注目した。これまで、MICE は産業振興や経済発展の為のツールとして捉えられることが多かったが、今回の発表では「人口減少自治体」における「地域再生」、あるいは「幸福という価値創造」のための「場」としての MICE という新たな視点を提供し、自然発生的な動向を ‘small innovative MICE

initiative’ と呼んだ。

「小さく創造的な MICE」は、イノベーション環境の整った都市や、ソーシャルビジネス、地域活性化などの自己実現的活動を積極的に行う若者の多い地域で自然発生的に組織されている。それは、小規模であるが、頻繁に、かつ活発に開催される。



Today's Topics

1. Current Affairs of Japanese Society
population declining, aging, small birth ratio
spreading economical gap - disunity
2. Challenge of Local Cities
innovative small MICE Fukuoka
increase of co-working place
everyday small innovative MICE
Small MICE in local cities
3. New Role of MICE in Population Declining Society
small, often, open, innovative

著者の講演タイトルと目次

これまでポーターのクラスター政策や国家レベル、州政府レベルの経済政策のツールとして行政主導で行われてきた MICE とは異なる。人口減少自治体において、MICE は関係人口構築のツールですらあり得るし、福岡市のようなイノベーション都市では、スタートアップ指向の移住者自体が積極的に活用しているツールである。

最後に、① MICE は大都市や国際都市だけのものではない。② MICE は知識だけでなく、人と人との関係性を媒介する。③ MICE は地域産業の発展に貢献するだけでなく、人口減少社会での生き残りに必要な「Associate Population (関係人口)」を構築する。と私の仮説を論じ、今後の研究連携を呼びかけた。

(3) 第2日 フェアウェル・ディナー

分科会終了後のフェアウェル・ディナーは、郊外のオーガニック・ファームが営む創作タイ料理レストラン「オーカーージュ」で催された。古都チェンマイの郊外に、このように大規模なオーガニック・レストランができたことには驚かされたが、地元ではすでに富裕層を中心に大変な人気であるとのことだった。近年は首都バンコクにも進出し、サイアムスクエアをはじめ3店舗を出店している。



オーカーージュでのフェアウェル・ディナー

チェンマイ本店の巨大なレストランは、オーガニック農場に隣接してつくられており、自由に農場の見学も可能である。料理はというと、オーガニック野菜を素材に、イタリアンありTEX-MEX ありの完全なフュージョン系である。特に野菜ジュースやフルーツジュースの種類が多い。



チェンマイ大(経)のパイラッチ博士と野菜ジュースで乾杯

(4) 第3日 トレーニング・セッション、展示会

今回は帰国のために出席できなかったが、3日目には大学生、大学院生を対象としたトレーニング・セッションやミーティング産業サプラヤーの展示会が開かれている。

4. タイ政府コンベンション&エキシビション・ビューローを通じたタイ高等教育機関との交流

タイは「観光立国」という点において、日本が見習う点が多い国である。メディカル・ツーリズムやエコ・ツーリズムもさることながら、MICEに関しては、シンガポールと並んで、産官学を上げての先進的な取り組みが行われてきた。その中心的役割を担っているのが、タイ政府コンベンション&エキシビション・ビューロー(TCEB; Thailand Convention & Exhibition Bureau)である。

TCEB では、国際会議や国際見本市の誘致を行うだけでなく、MICE の専門人材の育成に力を注いできた。前述のように教育カリキュラムの提供を行っている国内の高等教育機関は、実に106機関(大学62、専門学校44)に上る。当初は、教員の数自体を確保することが大変であったが、Coach the Coaches という会議産業従事者による教員の教育研修会を行ったり、TCEB 自体が全国共通の教科書を制作して配布

前 嶋 了 二

したりして年々拡大してきたもので、現在では毎年6,000名規模の卒業生を輩出するまでに成長している。

では、輩出された専門人材はどのように会議産業へと導かれるのか。TCEBでは、2014年以降毎年6月にMICE Academy & Career Dayと称し、バンコクのシリキット国立展示場で見本市を開催し、大規模なマッチングを実施している。今後は全国を北部、北東部、東部、西部、南部の5地域に分け、それぞれの地域でも開催ができるように整えていく方針である。

TCEBは、海外の大学との交流も支援している。MICE Academic Cluster Allianceでは、すでにオーストラリア、中国、ドイツ、日本、香港、韓国台湾、米国の8か国49高等教育・研究機関と覚書を結んでいる。各大学の国際研修や交流には、TCEBから財政支援が行われており、私も2015年以来、福岡への大学生の受入に携わってきた。

今回は、会議に出席したMICE人材部のおランチョン・ウォングパンガム部長、アレーラト・モントリーブリチャチャイ上級マネージャー、顧問をされているシラパコン大学のカエダシリ・ジャロウエンウィサン博士とお会いして、今後の福岡との学術交流に関して意見交換を行った。



MICE アカデミー顧問カエダシリ博士（シラパコン大）と

TCEBはこれまで九州産業大学を福岡でのパートナーとして大学生の相互交流を行ってきた。2015年以降、私が企画運営してきた1週間の「MICE/Tourism サマーセミナー」に毎年40名規模の大学生を派遣しており、毎回予約受付開始半日で満員となる。また、数十名のキャンセル待ちがつくほど、タイでMICEを学ぶ大学生にとって、日本へのあこがれは強い。

これまでの「MICE/Tourism サマーセミナー」では、座学を最小限の設定として、福岡及び九州内の主要観光コンベンション都市やグリーンツーリズムの現場を体験してもらうプログラムを組んできた。前回は大分県佐伯市での農家民泊、漁村民泊も組み入れ、大都市の富裕層の家庭に育った学生たちにとって大変新鮮な経験となったようである。なかでも顧問として同行されたシラパコン大のカエダシリ博士は、農家民泊のプログラムを大変気に入られており、継続的に実施されたいとの意向だ。



農家民泊を楽しむタイの大学生

今回、TCEBとカエダシリ博士からの申し入れは、私の中村学園大移籍に伴い、弊学と交流覚書を結んだうえで、サマーセミナーの開催と大学生の受入をしてほしいというものであった。今年度内⁽³⁾に覚書を交わし、次年度から早速実施したいとの意向である。

(3) タイでは4月のタイ正月「ソングラーン」を境に年度が替わる。

TCEB を介した学術交流は、タイの富裕層を中心とした留学生市場へプロモーションが可能となる⁽⁴⁾だけでなく、日本側にもメリットがある。弊学学生の短期海外研修や留学先として、進んだホスピタリティ教育を行うタイ国内の大学や観光・MICE 関連施設の協力が得られるだけでなく、TCEB からも財政支援が得られる。

タイ政府は「2020年までにアセアンにおける MICE 教育のハブとなる」ことを目指して、積極的な人材教育を行ってきた観光立国である。政府の全面的な支援を受けた強力なタスクフォースである TCEB との関係を確立し、国際レベルでのホスピタリティ教育に力を入れたいと考える。

(4) 毎年6月にバンコクで開催される「MICE アカデミー&キャリア・デイ」への参加・出展が可能となるだけでなく、TCEB を通じて62大学44専門学校への情報発信が可能となる。